

日

拝啓仕候。のぶれ 陳は過日、やせがまん 瘦我慢

の説と題したるそうごう 艸稿一冊を呈し、

或は御一読もあるとい 被成下候哉。なしくだされ 其節申上や

候通り、何れ是はいず 時節をこれ

見計、世に公にする積りにそうちえども 候得共、

尚熟考 仕候に、書中或はあるい

事実に間違は有之間敷哉。これあるまじくや

又は立論の旨に付、御意見は有之これあり

間敷哉。若しこれあらば、まじくや も

無御伏臈被仰聞被下度。小生のごふくぞうなくおおせきかされくだされたく

本心は、漫に他を攻撃して楽しむみだり

ものにあらず。唯、多年来心に

釈然たらざるもの記して

輿論に質し、天下後世のた ために

せんとするまでの事なれば、当局

のご本人に於て云々の御説もあらば、

拝承致し度義に御座候。

なにとぞ もら ねがいたてまつり  
何卒御洩し奉願候。要用  
のみ かさねて  
而已、重而勿々頓首。

二十五年  
二月五日

諭吉

榎本武揚様

梧下

(以下略)